

2025 年度第 2 四半期決算説明会 質疑応答

(説明会概要)

- 日時： 2025 年 11 月 6 日(木)16.00-16.45
- 形式： OKI 本社よりオンライン配信
- 説明・応答者： 代表取締役副社長執行役員 寺本禎治

(質問者 A)

- Q1：通期予想の当期利益 20 億円上方修正について、政策保有株式売却と構造改革効果の割合は如何か。また、構造改革の内容について説明いただくと有難い。
- A1：いずれも現在進行中であるので、今後の進捗により通期実績での内訳は変わってきますが、上期実績の特別損益としては政策保有株式売却影響が多く出ています。とくに政策保有株式売却について投資先があるお話しですので、今後も圧縮を進めていきますが現在の想定より大きくなる可能性もあるかもしれません。なお、構造改革の内容については説明を控えますが、今期に限らず生産拠点の再編などが含まれます。
- Q2：EMS で言及されていた、顧客における在庫調整・開発延伸について詳細をお聞きたい。
- A2：D/EMS 事業における説明でしたが、半導体や医療に関連する顧客において在庫調整が進んでいない、あるいは顧客事情による開発の延伸があります。
- Q3：営業利益の通期予想据え置き理由として、商品構成について言及されていたが、詳細をお聞きたい。
- A3：今回通期予想を変更したセグメントは EMS ですが、売上は下方修正するなかで営業利益を据え置く理由として商品構成の良化と説明しました。売上下方修正は D/EMS 事業が主因です。一方で、AI 半導体や航空宇宙向けプリント配線基板で新規受注が伸び、また FA ロボット向けケーブルでも需要が回復し、部品事業は順調に推移しています。利益率を比較すると、D/EMS より部品事業が高く、現時点では期初予想の営業利益は達成可能と見ています。

(質問者 B)

- Q4：複数のセグメントにまたがるかもしれないが、モビリティ分野における V2X 市場への参入について、お話を伺いたい。
- A4：イノベーションを推進する部署を中心にいくつかの取り組みがありますが、今期や来期の業績に大きく貢献するような案件はまだありません。こちらについては、次期経営計画のなかでお示しできればと考えています。
- Q5：同じく今後が有望視されているヒューマノイドロボット市場について、どのように見ているか。
- A5：ロボットそのものを製造するわけではありませんが、EMS の部品事業で手掛けるケーブルは FA ロボット市場向けで貢献しています。また AI 半導体向け製造装置として、テスター用の高多層プリント配線板を製造しており、今後も市場ニーズに応えていきたいと考えます。
- Q6：新政権が発足して期待が高まっている宇宙・防衛産業については、どのようにお考えか。
- A6：同様に成長性がある市場と見ており、宇宙機器向けに要求されるスペックを満たしたプリント配線板を現在手掛けています。また、防衛産業については、国防強化方針の中で謳われる無人機や省人化に対して弊社の技術で貢献できると考えており、防衛装備品の海外移転に向けても水中音響技術などで応えていきたいと思います。
- Q7：次期経営計画について、基本的な方針・考え方・方向性などで現在言及できることはないか。
- A7：年度内には骨格をお示しできると考えています。「社会の大丈夫をつくっていく。」というキーメッセージのもと、これからも社会インフラを支えていくところは変わらないと思います。いまの主力事業をより強くしていく一方で、従来できていなかっ

た領域で、これまでに培った技術を活用し、新事業をどうやって大きく育てていくのか、というところを社内で検討しています。

(質問者 C)

- Q8：パブリックソリューションは上期実績が黒字だったが、好調の要因は。
- A8：社会インフラソリューション事業における消防・防災・道路、とくに消防が大きく貢献しており、消防指令システムで大規模な更改時期を迎えています。
- Q9：特機システム事業において、生産能力増強について言及されていたが、詳細をお聞きたい。
- A9：沼津工場の新棟建設に着手しており、2027 年稼働予定、生産能力は 24 年度対比で約 1.5 倍になります。
- Q10：エンタープライズソリューションについて、コンビニ ATM 統廃合の報道や、富士通の ATM 製造撤退後のハードウェア供給などを踏まえ、来期以降は増収となると考えているのか。また、ATM の市場シェアについてもお聞きたい。
- A10：今年度減収の背景は大型案件の剥落のためで、ベースとなる事業は収益力が高まっていると考えています。ATM などハードウェアを供給しているユーザーに対し、保守や監視などオペレーション分野への貢献を拡大し、収益を高めていきたいと考えます。なお、国内における稼働 ATM の弊社シェアの詳細は差し控えますが、4 ～ 5 割程度とみております。
- Q11：通期売上について下方修正した EMS について、営業利益達成の確度が高いと考えて良いか。なお、下方修正した売上 100 億円は来期へのズレと理解して良いか。
- A11：通期営業利益達成にむけ目下取り組んでおり、変動費も固定費も対策・施策を推進中です。部品事業は順調に推移しており、昨年と比較して収益力は回復していると見ています。なお、下方修正分の売上 100 億円については、顧客事情もあるため来期への影響については回答を差し控えます。

(質問者 D)

- Q12：特機システム事業について、上期実績をみても売上が伸長しているが、一方で上期における受注実績はどのくらいであったか、説明いただけると有難い。
- A12：具体的な金額は差し控えますが、今年度売上が確保できる規模の受注は確保できています。

以上

(注)本資料における予想、見通し等は、現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。なお、記載内容につきましては実際のやり取りに即しておりますが、理解しやすいように部分的に編集を加えております。